



2024年度を迎えてのご挨拶

神戸朝日病院 理事長 金 守良

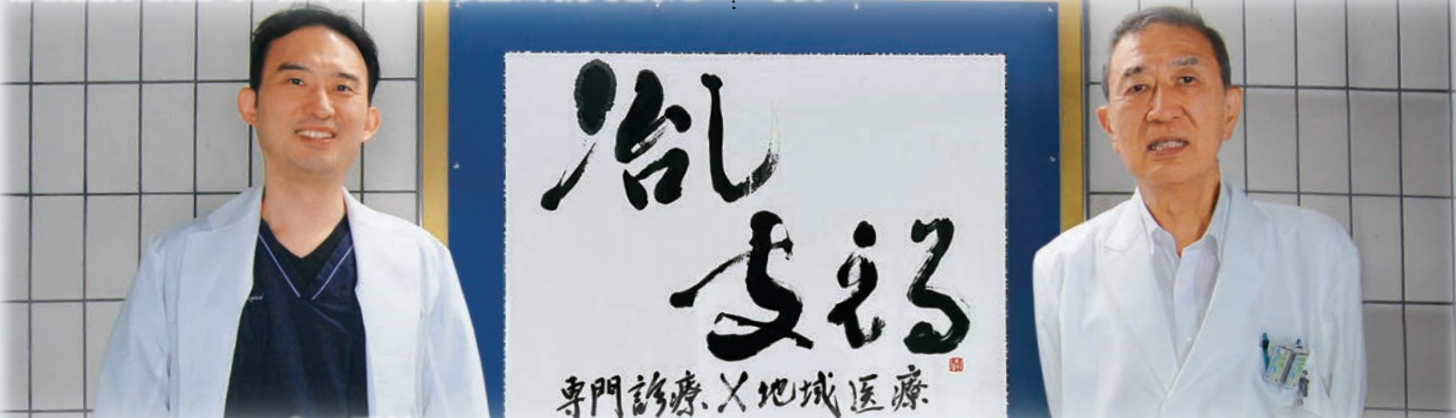
本年も、看護部、医療技術部、事務部に、多くの新入職員を迎えました。心から歓迎の挨拶を贈ります。

さて 去る2019年に突如として出現した新型コロナウイルス（COVID-19）は瞬く間に世界および日本を席捲し、多くの人々の命を奪い、我々の生活を一変させました。この4年間、当院を含む全ての医療機関はその対応に追われ、警戒は今も続いています。

ただ、COVID-19は2023年5月からは5類感染症に移行し、行動制限は一段落しました。従って、本年度は当院においては2020年以前の元の世界に戻り、本来の医療活動を全面的に展開することが求められています。

新入職員に求められるのは、第1に第一級の医療技術者に要求される知識・技術習得に全力を注ぐことです。現代医学はすさまじい勢いで発展しています。従来の知識・技術を踏襲するだけでは社会・患者様の要望に対応できませ

ん。一例をあげれば、癌治療は外科手術・放射線・化学療法が3大療法です。ただ、化学療法について言うと従来の脱毛など副作用が多く、効果のあまり高くない殺細胞性抗癌剤が主流でしたが、近年は副作用が比較的少なく効果が比較的高い免疫チェックポイント療法、分子標的療法が主流となってきました。その知識は医療技術者には必須です。第2に、他の医療職との協力、共同、言い換えれば、チーム医療の一員としての自覚が要求されます。上記に述べた急激な医学の進歩に対応するためにも、個人プレーではなくチームプレーがますます重要になってきました。第3に、優れた医療技術者であると同時に「よき社会人たれ」ということです。挨拶をはじめとして、社会人としてのマナー・態度の確立は何よりも重要です。その点については、医療機関は一般企業よりも遅れていると指摘されています。その遅れを早急に克服して一般企業並みの水準に到達することが重要です。



神戸朝日病院 院長 金 秀基

神戸朝日病院は今年で創立36年目となり、私が当院に赴任して8年が経ちました。私たちは、全世界が直面したコロナ禍の直近数年間も含めてこれまでに数多くの経験を積み、病院機能の拡充および設備の強化に努めてまいりました。昨年度は地域包括ケア病棟の増床、病院外壁・病室全室の大規模修繕、摂食嚥下療法の展開、最新の骨粗しょう症検査機器の導入、屋外ガーデンの設置などを行っております。

今まで当院にかかわってくださっているすべての方の思いやご尽力を継承しながら、2024年4月より病院新執行部を構成し、神戸朝日病院として新しい節目（第二章）を迎えました。高齢化時代の中で、病気を治療することに加えて患者様の生活をトータルで支援する医療が求められていますが、まさにこの「治し支える」医療こそ、私たち神戸朝日病院が担うべき役割です。言い換えれば、幅広く質の高い診療（専門診療）と、患者様・ご家族様に寄り添った医療（地域医療）を矛盾なく融合させた医療を展開することを通じて、皆様の人生のお役に立てるような病院像が当院の

目指す姿となります。そのために各部門においてはさらなるプロ意識の醸成に加えて知識・技術の研鑽を継続いたします。同時に、病院全体としては中小規模ならではのいい意味で「縦割りではない」特性を生かして、「柔軟性」「可塑性」「スピード感」を伸ばしてまいります。今まで築いてきた基盤を踏まえて、第二章ではこれからの医療業界において求められる「治し支える」医療をより一層体現していく所存です。（当院薬剤部大谷副科長に書作品「治し支える」を書いていただき、病院入り口に展示しております。）

折しも、2024年初めごろより～デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO/キイト）と神戸市長田区役所のご発案で、長田区房王寺町・神戸電鉄長田駅近隣エリアの活性化プロジェクトが動き出しております。当院もまさに該当地域の病院として積極的にかかわらせていただき、医療分野のみにとどまらない地域貢献を果たしていければと考えております。

皆様のご期待に応えられるように今年も邁進いたします。何卒よろしくお願い申し上げます。

就任のご挨拶



副院長

佐々木 健一



2024年4月より副院長に就任しました佐々木健一と申します。

2023年4月に神戸朝日病院に着任しましたが、当院には病院をより良くしていこうという雰囲気が

あり、働きやすいと感じながらこの1年やってまいりました。私は今までの医者キャリアの多くの期間を総合病院の循環器内科で心臓カテーテルに従事しながら心臓疾患だけを診療するスタイルで行ってきました。現在のように幅広く様々な病気を診療するようになって実感したのは、総合病院に通院していない方の中に循環器専門診療を必要とされる方がたくさんおられること、また自らの専門分野だけでなく様々な症状に対応することで

地域の方々に喜んでいただけることです。これからも専門を含めた診療面で貢献していけるよう頑張つてまいります。

日本は超高齢社会となりました。私が医者人生を歩み始めた20年前とは入院されている方の年齢層が全く異なります。当然、求められる医療も変わってきます。神戸朝日病院は金秀基院長のリーダーシップのもと、今の時代に必要な「治し支える」医療、病気の治療をするだけでなく生活支援を含めた医療を行っています。長田区は神戸市の中でも最も高齢化率が高く、このような医療を必要とされる方は多いと感じています。診療面だけでなく病院全体として地域の皆様にとってより良い医療を提供できるよう努力してまいります。また私は医療安全も担当しており、安心して医療を受けて頂ける仕組み作りにも注力していく所存です。

何卒よろしくようお願い申し上げます。

法人本部長

谷口 美幸



4月1日より法人本部長に就任することとなりました。このような新たな大役を仰せつかり責任の重大さに身が引き締まる思いです。

神戸朝日病院は2020年2月「医療

法人社団秀英会」として法人設立いたしました。

病院は神戸市の中で最も高齢化率の高い長田区の中でも特に少子高齢化の課題を抱える地域にあります。

神戸朝日病院（急性期病床76床・地域包括ケア病床58床）と病院併設の神戸朝日訪問看護ステーションを運営する法人として、この地域で果たす役割は、今後ますます重要になると感じています。

今春、神戸朝日病院は、開院36年となりました。4月1日には15名の新入職員を迎えました。この先、長く地域に求められる医療機関として、そして非常勤を含む約230名の職員が安心して長く働くことができる法人として存続するためには、これまで取り組んできた「治し支える」診療を大切に継続しながら、時代の変化に対応する力をつけていかなければならないと思います。

医療業界を取り巻く状況は決して順風ではありません。新体制の執行部が力を合わせ、「秀英会」に新しい風を取り込み、さらに組織が成長できるよう努めて参ります。

これまでのご支援に感謝いたしますとともに、これからも引き続きご指導賜りますようお願いいたします。

事務局長 天野 弘明



「関わってくださる患者様の人生を大事にすること」「地域包括期病院として地域医療と専門診療を融合させること」をもとに、患者様、地域の皆様のお役に立てるよう粉骨砕身の思いで努力する所存です。

さて、今年6年に一度、医療・介護・障害福祉が、

このたび、谷口前事務局長の後任として、4月より事務局長に就任いたしました天野弘明と申します。前任者の存在が大きく、もとより身に余る重責ではございますが、金秀基院長の方針であります

施設基準や報酬などを同時期に見直しするトリプル改定の年になりました。医師の働き方改革がスタートし、診療報酬改定では医療従事者の人材確保や処遇改善に向けた取組が重点課題に挙がりました。勤務環境の改善、業務の効率化に資するICTの利活用、多様な働き方の推進など、医療従事者が働き易く、より力を発揮できる環境づくりに力を注ぎたいと思います。

今回のトリプル改定では、以前より求められている「病院完結型」から、地域で治し、支える「地域完結型」がより重要なポイントになってきます。かかりつけ医、病院、介護、福祉の連携をより一層強化し、神戸の地域医療を担う医療機関として貢献できるよう努力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

看護部長 長井 有香子



戸朝日病院の看護の充実を目指して日々職務に取り組んでまいりたいと思います。

当院は地域の病院として幅広く様々な疾患に対応しておりますが、加えて肝臓、消化器（内視鏡）、循環器、腎臓（透析）、脳神経内科、IVR 治療、外科・整形外科手術などの領域における専門診療も行っております。私たちは、これらの病院の特性に添った質の高い看護を提供していきたいと考えています。

この度、長きに渡りご尽力くださった竹内看護部長の後継として2024年4月より看護部長に就任いたしました長井有香子と申します。微力ではございますが、皆様のお力添えをいただきながら、神戸朝日病院の看護の充実を目指して日々職務に取り組んでまいりたいと思います。

また、多職種で連携しながら在宅支援にも力を入れて取り組んでおり、訪問診療・訪問看護にも繋がっております。「認知症の関わり方が分からない」「在宅生活が困難になってきた・・・」など、お困りのことがございましたらお気軽にご相談いただけましたら幸いです。

看護部の理念としては、病院の方針である「専門診療と地域医療の融合」「治し支える医療」を合言葉に、地域住民の健康を守り、その人らしくいられるよう支援することを目指していきたいと思っています。そして、人の痛みや心の機微を捉え言葉にならない思いにも気づくことができるよう「至誠一貫」の精神を大切にしていきたいと思います。

今後とも地域の皆様や職員スタッフにとって信頼される病院であり続けるため、日々精進して参りますので、ご支援、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

医療技術部長 鈴木 龍司



力一検査、尿・一般検査、超音波検査等、正確かつ迅速な検査結果を提供することに努めています。医療技術部は、薬剤科、診療放射線科、臨床検査科、リハビリテーション科、栄養科、透析室と6つの科・室で構成され、

2024年4月1日付けで、医療技術部長に就任しました鈴木龍司と申します。臨床検査技師をしています。臨床検査技師として、B型・C型肝炎をはじめとする感染症検査、生化学検査、腫瘍マーカー検査、尿・一般検査、超音波検査等、正確かつ迅速な検査結果を提供することに努めています。医療技術部は、薬剤科、診療放射線科、臨床検査科、リハビリテーション科、栄養科、透析室と6つの科・室で構成され、

薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・理学療法士・言語聴覚士・歯科衛生士・臨床工学技士・栄養士・管理栄養士と様々な職種で構成されています。医療技術部とは、医療系技術職員を一元的に組織化し、医療の質の向上を図るとともに、診療業務を円滑かつ効率的に遂行するための要員配置を行い、医療技術業務の更なる推進および患者サービスの向上に努める組織です。当院の基本理念である『治し支える医療』に徹し、診療部門への迅速かつ正確な診療情報の提供とさらなる医療技術の質の向上を目指して努める所存です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

地域医療連携室のとりくみ



地域医療連携室では昨年4月に着任した森井崇弘室長を中心に、患者様に対して「単に病気を治療するだけでなく、その病気と向き合っていくこと・健康に関心を持ちそのための視野を広げていただくこと」を目的とした活動を昨年10月より新たにスタートさせました。

これは、地域住民の皆さまの声を聞きそこにあるニーズをくみ取り、地域医療を担う医療機関として私達に何が出来るかを考えていく活動の一環です。地域の皆さまにとって必要な病院となるためにその地域を知り私達のことも知って頂く場と位置付け、テーマも「認知症の方への接し方が知りたい」「簡単に作れる健康的な料理は？」など、住民の方々が身近に経験された疑問やお困りごとを取り上げ、その開催は市営住宅、商店街、地域福祉センターなど5カ所ですでに13回にわたります。



第2回かごの相談会 2024.2.16



第1回健康いきいきサロン 2023.10.12



第2回健康いきいきサロン 2023.11.9



第3回健康いきいきサロン 2023.12.13



第4回健康いきいきサロン 2024.1.30



第5回健康いきいきサロン 2024.3.5



第1回かごの相談会 2023.11.1

これらの活動にとどまらず様々な方法で、患者様、地域住民の皆さまとのコミュニケーションを深め信頼関係を築いていけるよう、これからも活動を続けて参ります。

最新型骨塩定量検査装置 (骨密度計測装置)を 導入いたしました



当院では令和5年11月に、GE社製の最新型骨密度計測装置を導入しました。骨密度測定と言うと、一般的には主に前腕または腰椎等の骨折好発部位を計測しますが、本装置は全身の骨(頭～足の指)を計測し、これによって全身の骨および筋肉の状態を正確に把握することができ、その計測時間は約15分と短時間です。

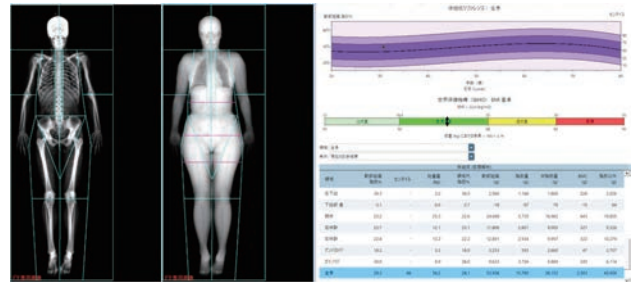
但し、妊娠中の方、体内インプラントのある方は測定できません。

骨の健康が健康寿命のカギ!

骨については、従来の「骨密度」に加え「骨質」も評価します。実はこれらの方でも値が低いと骨折のリスクとなることが近年の研究で判明しており、両方が正常値であってはじめて健康な骨とされます。

また筋肉量については「骨格筋量指数」と呼ばれる指標を計測します。これにより『ロコモティブシンドローム』の原因の一つであるサルコペニアの診断ができ、ひいては予防もできるということになります。

また当院では、この機械の導入を契機に診療放射線技師を中心に臨床検査技師、理学療法士、管理栄養士、薬剤師、看護師といった多職種で連携を取りながら「骨粗しょう症の予防と改善」「骨折防止」を目的とした取り組みを行っています。具体的には、適切な治療方法や、食事、運動等それぞれの患者様に応じたサポートを行います。長く健やかな人生を強い骨で支えていきましょう。



新任医師のご紹介

内科・脳神経内科

緒方 裕基 先生 (熊本大学 平成27年卒)

日本神経学会 神経内科専門医
日本内科学会 認定内科医

火・水・木・金・土 日勤
外来担当: 水・土 (午後診)、木 (午前診)

【緒方先生よりひと言】

脳卒中、認知症、パーキンソン病といった脳神経内科疾患の診療で皆様のサポートができればと思っています。症状で「物忘れ」「頭痛」「手足の脱力、しびれ」「めまい」などあればご相談ください。

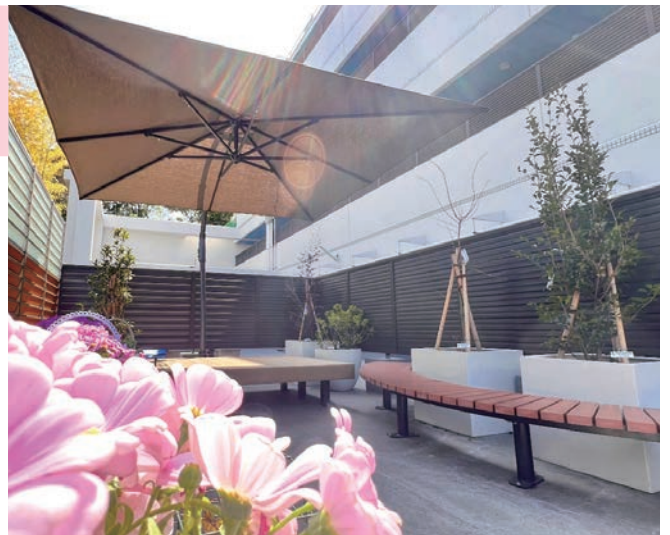


あさひガーデンテラス Open!

この度当院本館2階に『あさひガーデンテラス』をオープンしました。

このガーデンテラスは、患者様のリハビリ歩行やご入院中の患者様の気分転換のための利用の他にも、患者様や職員の憩いの場として活用するスペースです。

兵庫県が推進する「県民まちなみ緑化事業」の一環としてその制度を活用し作った庭園は、現在その使用、運営、管理方法を模索中ではありますが、春本番となり、これから、当院の“人気スポット”として争奪戦となること間違いなしです。



鮭と春野菜のクリーム煮

栄養科 管理栄養士 前田 恵里子



材料 (2人分)

- ・鮭: 2切れ
 - ・スナップエンドウ: 6本
 - ・ぶなしめじ: 1/2株
 - ・玉ねぎ: 1個
 - ・じゃがいも: 2個
 - ・バター: 10g
 - ・小麦粉: 大さじ1
 - ・牛乳: 1カップ
 - ・塩、こしょう: 適量
- ★水: 適量 (具材がかぶるくらい)
★顆粒コンソメ: 小さじ1



今回は春の旬野菜を使った骨粗しょう症予防レシピをご紹介します。

■乳製品や小魚に多く含まれるカルシウムは骨や歯の主成分であり、毎日積極的に摂取することが大切です。また、カルシウムの吸収を助ける働きをもつビタミンD (魚介類・きのこ類など)、骨のカルシウム沈着を助けるビタミンK (大豆製品・緑色野菜など) を一緒に摂ることで吸収率を高めることができます。

■春が旬のスナップエンドウや新じゃがいも、春キャベツなどは、ビタミンKやカルシウム、コラーゲンの合成にかかわるビタミンCを多く含み、ストレスから体を守り、抗酸化作用や動脈硬化予防にも効果があります。

■ビタミンDが豊富な鮭は、小麦粉をまぶし焼いてから煮込むと栄養素やうま味を逃がすことなくふっくら仕上がります。

●栄養量 (1人分) エネルギー: 355kcal、たんぱく質: 23.0g
カルシウム: 150mg、食塩相当量: 1.3g

作り方

- ① スナップエンドウは筋を取り、熱湯に少量の塩を加えて (分量外) 2~3分を目安に茹でる。
- ② ぶなしめじは石づきを取り除いてほぐし、玉ねぎは4等分、じゃがいもは1.5cm幅の輪切りにする。
- ③ 鮭は食べやすい大きさに切って塩・こしょうをふり、小麦粉をまぶす。フライパンにバターを熱し、両面こんがり焼き、一度取り出す。
- ④ フライパンに②、★を入れ、やわらかくなるまで煮る。
- ⑤ ④に①、③、牛乳を入れ、煮立ってきたら塩・こしょうで味をととのえ、火を止めて器に盛り付ける。(お好みで粗挽き黒こしょうを振る)

認定施設

- 二次救急指定
- 兵庫県肝疾患専門医療機関
- 日本肝臓学会認定施設
- 日本消化器病学会認定施設
- 日本消化器内視鏡学会認定施設
- 臨床研修指定 (神戸大協力型)
- 日本医療薬学会認定薬剤師研修施設

- 日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設
- 日本臨床栄養代謝学会NST稼働認定施設
- 日本栄養療法推進協議会NST稼働認定施設
- 日本IVR学会専門医修練認定施設
- 神戸市立医療センター中央市民病院
内科専門研修プログラム特別連携施設
- 日本外科学会外科専門医制度関連施設

交通のご案内

〒653-0801 神戸市長田区房王寺町3丁目5-25
代表電話: (078) 612-5151
神戸電鉄「長田駅」より徒歩5分
神戸市営バス③・⑥・⑪・④⑩・⑫
「房王寺町5丁目」バス停より徒歩5分

